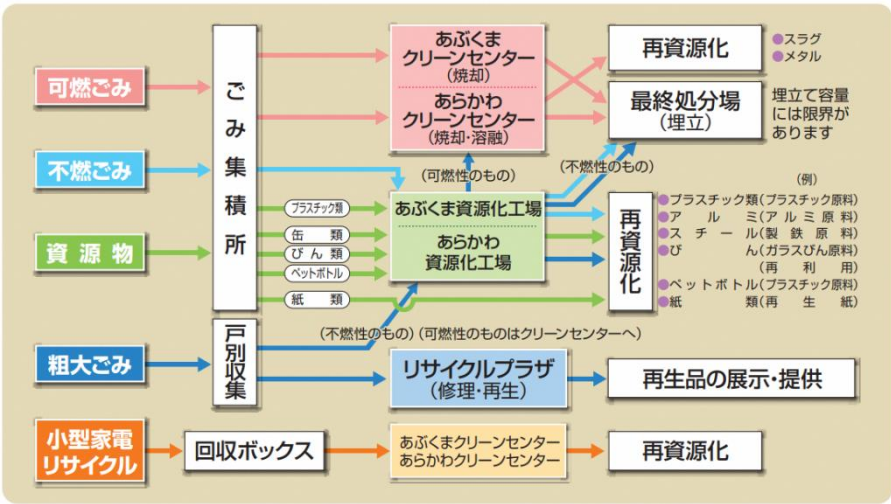


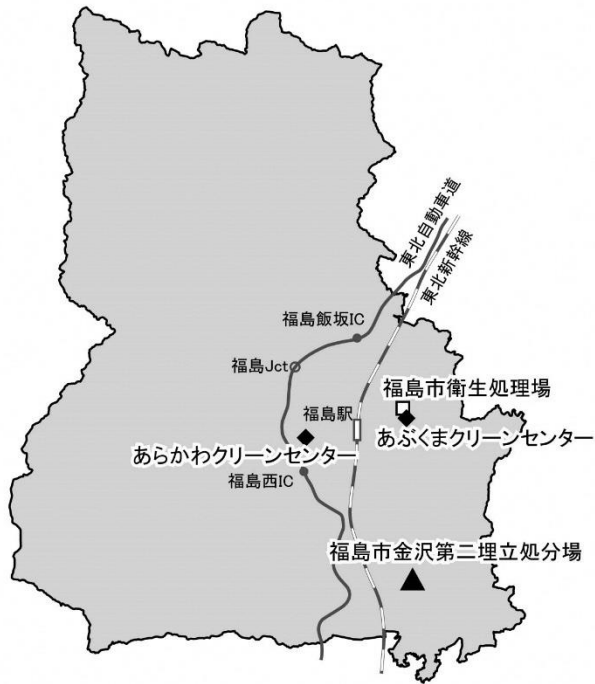
■福島市の現状及び基本構想の目的

福島市のごみ処理の現状は、次のとおりです。

- (1) 東日本大震災及び原発事故からの復興の途上である。
- (2) 放射性物質を含んだごみ（草木等）の対策が必要である。
- (3) 1人1日あたりのごみ排出量が人口10万人以上の都市で全国最多（平成26年度、平成27年度）となっている。
- (4) あぶくまクリーンセンターとあらかわクリーンセンターの2カ所で処理しているが、あぶくまクリーンセンターの老朽化が進んでいる。



災害ごみ等が発生しても対応可能となるよう、市内に可燃ごみ処理施設が2カ所は必要であり、老朽化したあぶくまクリーンセンターの再整備を早急に進める必要があることから、あぶくまクリーンセンターを再整備するための基本方針、計画条件を整理することを目的に基本構想を策定しました。



基本構想の振り返り（基本方針、計画条件等）について

■あぶくまクリーンセンター再整備における基本方針

新施設の再整備にあたっての基本方針は以下のとおりです。

1 安全・安心な環境にやさしい施設整備

- (1) 最新技術の導入も検討し、安全かつ安定的で衛生的な処理が行える施設とします。
- (2) 高度な公害防止設備を設置し、市民が安心して生活できる生活環境を保全します。また、温室効果ガスの発生を抑制し、自然環境への負荷を低減します。
- (3) 災害に強く長期間の稼働に耐えうる施設とします。

2 循環型社会・低炭素社会の形成に寄与する施設整備

- (1) 施設で発生する余熱を積極的に回収し、発電等による有効利用を図ります。
- (2) 既存の余熱利用施設との連携を、円滑で効率的なものとし、安定した熱供給を行います。
- (3) 施設で発生する排出物の減容化・再資源化を検討し、最終処分場の延命化を図る施設とします。

3 周辺環境と調和した施設整備

- (1) 周辺環境と調和した色彩、デザイン等により、景観に配慮した施設整備を図ります。
- (2) 利用者の立場に立った小動物焼却施設の整備を図ります。

4 市民との協働による施設整備

- (1) 地元住民との協議・情報共有により、信頼関係に基づく施設整備を図ります。
- (2) 利用者をはじめとした市民の意見を反映し、施設の動線・配置計画を検討し、安全で利便性の高い施設整備を図ります。
- (3) 既存施設のうち、建設予定地に配置されているヘルシーランド福島の駐車場や屋内ゲートボール場の再整備も検討します。

5 経済性に優れた施設整備

- (1) 過大とならない施設規模の検討や、効果的な設備の選定を行い、費用対効果の高い施設とします。
- (2) 建設費及び維持管理費を含めた全体的な費用の削減を図ります。
- (3) 国の交付金制度を最大限活用できる施設の整備を検討します。

■再整備における基本条件

・処理システム

以下の5方式とし、今後、最適な処理方式を選定します。

処理システム	処理方式	概要
焼却方式	ストーカ式	ごみを火格子上で焼却する処理方式 ※現在のあぶくまクリーンセンターの処理方式
	流動床式	加熱した砂にごみを投入し焼却する処理方式
	焼却＋灰溶融方式	焼却後の灰処理を目的に焼却炉に灰溶融炉を併設した処理方式 ※あらかわクリーンセンターの処理方式
ガス化溶融方式	シャフト式	ガス化炉と溶融炉が一体化した処理方式で、溶鉱炉の技術をごみ処理に応用した方式
	流動床式	低酸素濃度下の流動床炉でごみを炭化させ、生成した炭化物和ガスを後段の溶融炉において高温で燃焼・溶融する処理方式

・建設予定地

現在のあぶくまクリーンセンター焼却工場とヘルシーランド福島の間を建設予定地とします。



・整備予定施設

可燃ごみ処理施設、ストックヤード、小動物焼却炉の整備を予定します。

・公害防止条件

公害防止基準は、最新の法令を反映したものとします。また、項目によっては、さらに厳しい自主基準値を設定します。

・余熱利用構想

ヘルシーランド福島への熱供給を継続するとともに、エネルギー効率及び地球温暖化防止の観点から、さらなるエネルギー回収と電気の供給可能性を検討します。

・その他

災害時においても、ごみ処理が継続できる機能を確保するとともに、避難所であるヘルシーランド福島との連携手段構築など、災害対応機能の整備を検討します。